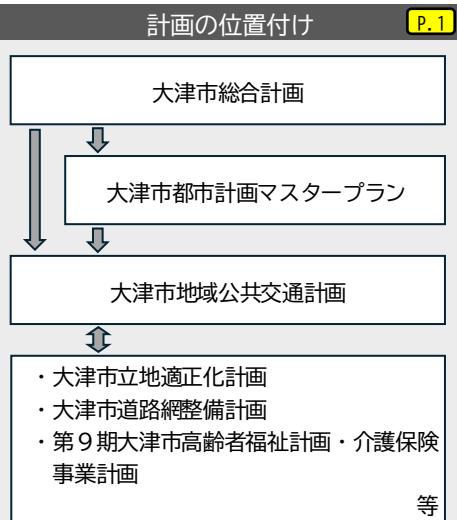


## 本市の地域公共交通に係る現況と課題



### 本市の地域特性

・総人口は近年横ばい傾向で少子高齢化は進展、将来推計で人口減少の見込み。  
・高齢化率、人口カバー率、交通手段分担率に地域差がある。  
・通勤者、通学者は市外流出が多く、昼夜間人口比率は低い。(市外へ多く流出)  
・人の移動は2010年から2021年間で減少、自動車の比率は約46%と高く、路線バスは約1%と低い。

### 市民等の意見

・アンケート回答者は高齢者が多く、自動車を普段運転せず、送迎者もいない人が多い。  
・路線バスで通学する高校生は約10%。  
・鉄道・路線バスは運行本数の多さや運賃の安さ等を重視。  
・のりあいタクシーは運行時間帯の充実や継続的な運行を重視。

### 本市の交通特性

・自動車保有台数は乗用車は横ばいで、軽自動車は増加傾向。運転免許証の保有率は64歳までは80%を超え、年齢階層が高くなるにつれ低下。  
・鉄道交通の利用者数は、2019年の新型コロナウイルス感染症の拡大により減少するも、2024年時点で約94%まで回復。  
・路線バスの利用者数は、2019年と比べ2023年に約87%まで回復するも2024年に減少。  
・一般タクシーの利用者数は、2019年と比べ2024年は約66%まで低下。  
・のりあいタクシーの利用者数は、運行内容の見直し等により利用者数は増加。  
・地域住民主体の共助による移動を支える取組が展開。

### 鉄道事業者の意見

・事業運営上の課題  
・運転手や整備士の不足  
・物価の高騰や人件費の増加  
・期待する行政の支援  
・運転手や整備士等の人材を求めていることの周知  
・鉄道利用と運動したまづくり

### バス事業者の意見

・事業運営上の課題  
・慢性的な運転手不足  
・燃料費等の高騰、人件費の増加  
・不採算路線、早朝深夜便の見直し  
・期待する行政の支援  
・「今乗らないと将来はなくなる」という周知啓発  
・路線維持等への経済的支援

### タクシー事業者の意見

・事業運営上の課題  
・運転手の確保が困難  
・LPG車の燃料補給が困難  
・燃料費等の高騰分、人件費の増加分を運賃に十分に反映できていない。  
・期待する行政の支援  
・助成金、補助金等の経済的支援

### 第1次計画の目標の進捗状況

指標	目標値	実績値(2024年度)	基準年度との比較	
鉄道の利用者数	JR 京阪電車	231,818人/日 55,777人/日	214,768人/日 54,958人/日	-7.35% -1.47%
路線バスの実車走行キロ当たりの利用者数	2.09人/km	2.34人/km	+11.96%	
路線維持のために国・県・市が補助するバス路線の収支率	52.7%	63.1%	+19.73%	
地域公共交通サービス全般に対する大津市の財政負担額	178,613千円	96,089千円	-46.20%	
公共交通による人口カバー率(デマンドタクシーや地域が主体となった交通サービスを含む)	93%	88%	-5.38%	
地域の交通課題を解決するために地域が主体となって検討・協議・運営等を行う取組の数	14件	10件	-28.57%	

本市の地域特性や交通特性、地域公共交通の利用者や交通事業者の意見、第1次計画の進捗状況等を踏まえる。

## 第2次計画(案)

### 目指すべき地域の将来像

安全、安心、快適に住み続けたいコンパクトで持続可能なまち

### 地域公共交通の目標像

・誰もが安全・快適で、安心して暮らせる地域公共交通  
・大津市の地域資源を活かし、地域の活力を育む地域公共交通

### 計画の区域

大津市全域

### 計画の対象期間

2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)までの5年間

### 策定のポイント

地域公共交通の路線の維持  
地域公共交通の担い手の確保  
多様な移動手段の確保  
交通不便地の解消  
地域の特性に応じた地域公共交通の実現  
高齢者の移動の支援  
児童、生徒の移動手段の確保  
地域の移動需要に対応する体制の整備  
地域公共交通の維持に関する意識の醸成  
地域公共交通の環境の整備

### 基本方針(取組の方向性)(案)

#### 取組の方向性1 地域公共交通の維持・確保

(1)地域公共交通ネットワークの維持  
- 市民や来訪者が利用する地域公共交通ネットワークの維持

(2)新たな移動手段の確保  
- 新たなモビリティや技術の導入等の検討

(3)移動手段の維持・確保のための仕組みの構築  
- 市民、交通事業者、行政が連携を図り、交通課題の解決に向けた体制の整備

(4)地域公共交通を補完する取組の支援  
- 地域公共交通を補完する地域団体等の取組を支援

#### 取組の方向性2 地域公共交通の利用促進、利便性向上

(1)地域公共交通の利用促進に向けた意識の醸成  
- 地域公共交通を大切に守っていく意識の醸成、利用への行動変容

(2)誰もが利用しやすい交通環境の整備  
- 高齢者や障害者をはじめ誰もが利用しやすい交通環境の整備

### 施策(案)

1-1 基幹となる鉄道・路線バスの運行の維持	滋賀県、鉄道事業者等と連携した取組の検討 国庫補助金を活用した路線バスの運行支援	湖西線利便性向上プロジェクト推進協議会での取組、大津市地域公共交通活性化協議会での交通事業者との協議 近江大橋線、京都比叡平線への地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域間幹線系統)の活用
1-2 支線となる路線バス、デマンド型乗合タクシーの運行の維持	国庫補助金等を活用した路線バスの運行支援 デマンド型乗合タクシーの運行	大津比叡平線、花屋敷線の里回地線への地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域内フィーダー系統)の活用 路線バスが廃止等となり他の代替交通手段の確保が困難な地域でののりあいタクシー「光ルくん号」の運行。滋賀県のコミュニティバス運行対策費補助金の活用
1-3 地域公共交通における担い手の確保	路線バス、タクシー事業者の運転手確保に対する支援 交通事業者の人材募集に係る連携	普通二種免許等の取得費用の一部を支援 国、滋賀県等と連携し、交通事業者の人材募集に係る合同企業説明会や運転体験会の開催
1-4 多様な移動手段、モビリティへの対応、新しい技術の検討	地域住民の共助による輸送サービスへの支援のあり方の検討 自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)に係る検討 送迎サービス運行事業者やスクールバス等との連携 民間事業者の輸送資源等との連携 シェアサイクル等の二次交通の充実の検討 新しい技術の活用	地域住民の共助による輸送サービス等、鉄道・路線バスを補完する取組への支援の検討 自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)に係る検討 福祉有償運送やスクールバスの送迎時間以外の活用法の検討 集客施設や従業員用の送迎バスの送迎時間以外の活用法の検討 シェアサイクル等の地域公共交通を補完する二次交通の充実に向けた検討 自動運転技術の活用に向けた情報収集や活用の検討
1-5 地域公共交通の維持・確保のための取組体制・支援体制の整備	地域公共交通について関係者が協議する場の構築 地域主体の取組に対する検討サポート	地域住民による主体的な協議の場の立ち上げや運営の支援 地域公共交通に関する出前講座等の開催
2-1 幅広い世代に対する継続的なモビリティマネジメントの実施	児童、生徒へのモビリティマネジメントの実施 地域住民へのモビリティマネジメントの実施	小中学生の地域公共交通の理解や愛着を向上させるため、滋賀県等と連携した交通環境学習等を実施 地域住民の地域公共交通の理解を向上させるため、情報発信や地域公共交通の乗車体験会等を実施
2-2 鉄道、路線バス等の利用に関する効果的な情報発信・提供	バス乗換マップ等の作成 等	地域公共交通の認知度向上に向けて、大津市バス&電車乗り換えマップを作成し、市民センターや観光案内書への配架や転入者への配布を実施等
2-3 関係機関等と連携した利用促進等の実施	イベントやキャンペーンを通じた利用促進等の実施 モビリティマネジメントを通じた利用促進の実施	滋賀県バス協会実施の「バスの目まつり」や、「大津の京阪電車を愛する会」主催のイベントとの連携、湖西線利便性向上プロジェクト推進協議会を通じたJR湖西線の利用促進キャンペーンの実施 継続的なモビリティマネジメントの実施により、地域住民等の行動変容を促進
2-4 人にやさしい車両の導入促進	ノンステップバス、ユニバーサルデザインタクシーの導入促進	高齢者、障害者等が乗降しやすい環境を整備するため、人にやさしいバス導入促進事業補助金や人にやさしいタクシー導入促進事業補助金を実施
2-5 鉄道駅のバリアフリー化の促進	高架駅のバリアフリー化の促進	大津市バリアフリー基本構想(実行計画)において、重点整備地区の生活関連施設に位置付けたJR湖西線4駅のバリアフリー化の整備を促進
2-6 交通手段の利便性向上	各種割引乗車券、企画乗車券の検討、実施 パークアンドライドの推進 地域公共交通の利便性向上に向けた多角的な検討	割引乗車券、企画乗車券の継続的な販売による観光客の呼び込みと市内公共交通の利用促進 びわこ浜大津駅周辺でのパークアンドライド駐車場の運営や鉄道利用時の割引施策を継続的に実施 地域住民の生活環境の維持向上を図るため、地域公共交通の利便性向上に向け検討
2-7 高齢者の運転免許証返納後の地域公共交通利用への転換促進	公共交通利用サービス情報の提供 高齢者が移動しやすい移動手段・移動環境等の整備や連携	滋賀県警察による自主返納高齢者支援制度や本市の高齢者運転免許証自主返納促進助成事業の周知 既存の地域公共交通が十分でない場合の様々な移動手段の提供の検討、ユニバーサルデザイン車両の導入や駅のバリアフリー化の促進

### 第2次計画の目標(案)

評価指標	現況値(2024年度)	数値目標(2030年度)	
地域公共交通による人口カバー率	87.1%(2025年3月末時点)	現況水準以上	
地域公共交通の利用者数	鉄道		
	JR	214,768人/日	現況水準を維持
	京阪電車	54,958人/日	現況水準を維持
	路線バス	21,815人/日	現況水準を維持
のりあいタクシー「光ルくん号」	51人/日	現況水準を維持	
地域公共交通サービス全般に対する本市財政負担額	76,399千円(決算額)	現況水準を維持	
補助対象路線の収支率	63.1%	現況水準以上	
路線バスの実車走行キロ当たりの利用者数	2.34人/km	現況水準以上	